

料は、年毎に増加しているが、本年度各官公庁、公共団体、大学、会社、その他個人から寄贈された資料は、図書973冊、雑誌70種、新聞35種、パンフレット類多数であった。個人として昨年に続いて福島市井筒氏より、犬に関する文献が寄贈され、また県民の方から自著あるいは自費出版物が贈られた。これらは、館報“あづま”の新着図書欄に載せて広く紹介した。

佐藤文庫は、郡山市の佐藤伝吉氏が、65年間にわたって収集した戦争文献を主とする資料である。昨年度中に、当館書庫へ搬入をおえ大体の仕訳けを完了したので、本年度は2名の専任職員をあて整理にとりかかった。整理は、目録カードの作成、分類番号の決定、蔵書印の捺印、ラベル貼付の三つの過程で行なわれる。この整理状況は、目録カード作成の終わったもの、和漢書、洋書ともに軍事一般、戦争史、戦術、戦争文学等約80%、分類決定を終了したものは、和漢書、洋書ともに戦争文学を除いたものとなった。ラベル貼付等の装備は、和漢書の軍事一般、日清戦争、日露戦争関係である。雑誌、新聞、その他切抜類の目録カード作成は、その方法を検討しつつ、若干の書誌的研究も併せて作業を進めている。

2 蔵書目録

図書目録は図書館の所蔵する図書、地図等資料の一覧表であり、利用者に、その図書館の蔵書を紹介する手段である。それは書誌的に周知せしめると同時に総括的で、しかもできるかぎり速かに所蔵資料を伝える必要がある。図書館には、必ずカード目録が備えつけてあって、書名、著者、主題等から検索できるようになっている。このカード目録の不備を補ない、広く館外の遠くに住む利用者に図書館所蔵資料を紹介するとともに、全国の図書館間の相互貸借を実現するのに必要なが、冊子目録である。図書館に来てみなければ、求める資料があるかどうかかわからないようでは、十分な奉仕活動とはいえない。特に県立図書館は、全県内の地域にサービスする資料センターであり、全所蔵の冊子目録の効用は大きい。そこで、昭和30年から始めた蔵書目録の刊行は、本年度は第7冊目として芸術関係図書約4,400冊を収録した。

今までに刊行した蔵書目録は、次の通りである。

郷土資料蔵書目録		30年3月
蔵書目録	総記・哲学篇	31年3月
〃	歴史篇	33年3月
〃	社会科学篇	35年3月
〃	自然科学・工学篇	36年3月
〃	産業篇	37年2月
〃	芸術篇	38年3月

3 製本について

毎日、毎週あるいは毎月入ってくる新聞、雑誌類は、すぐ閲覧に供されるが、やがてそれらを保存し、さらに多くの人々が将来も利用できるよう、散逸を防ぎ利用に耐える合本製本をしなければならない。また図書館活動が活発になり、利用が高まるにつれて、破損、汚損もはなはだしくなる。これら破汚損図書は、製本して装釘も新たに、再び利用者の手に渡るよう努めなければならない。製本を必要とする図書は、毎年増加する一方であるし、製本作業が利用の便を阻害しないよう迅速に運ばなければならない。

図書館資料の運用にあたっては、保存と利用が両輪のように回転することが必要である。製本技術の改良、製本機械、製本材料の吟味等技能員に課せられた問題は少くない。2名の技能員の努力によって処理された、本年度の製本冊数は、図書1,293冊、雑誌995冊、新聞215冊表紙帳簿類その他1,167件であった。

第3節 館内奉仕

昭和37年度における館内奉仕の努力目標の焦点は、一般成人（特に職業人）の利用者を多くふやすことに絞られる。従ってこの目的を達成するためには、どこに重点をおき、どんなサービスをなすべきかについて検討した結果、

- ① 参考事務系の機能を拡充し利用者に満足感をあたえるサービスを繰り広げる。
- ② 資料面においては、新鮮味豊かな魅力あるものを取揃える一方、参考図書館としての役割を果すのにふさわしい資料を収集する。
- ③ 施設的环境を整備し、快適なムードの中で読書や調査研究ができるように工夫改善を施す。
- ④ 集団を対象としたサービスを行なうためには、館内施設を開放し各種団体等にその利用を呼びかけ、施設活用によって団体とのつながりを密接にし図書館活動の普及啓蒙をはかる。

以上の4項目は、館内奉仕活動を遂行するための柱として、それぞれ整備改善を施し内容の充実につとめ、一般成人利用者の増大をはかった。その結果、徐々にではあるが、一般成人の利用者も増加するきざしが見えはじめ上昇線を示している。けれども、満足すべき成果をあげ得るまでには、今後更に一層の努力が必要である。

1 利用状況

今年度の館内利用状況を見ると、毎年のことながら学生、生徒によってその大半を占め（79.2%）一般成人はわずかに（20.8%）に過ぎない。利用者総数においては